
留守番

ケント

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

留守番

【Nコード】

N4564BA

【作者名】

ケント

【あらすじ】

留守番ができる子は偉い

朝、仕事に行く前に飼っている金魚に餌をやり忘れていたので、餌をやるために仕事が終わってすぐに家に帰ると、知らない男がいた。

「あつ、ちがつ、違う違う！ これには訳があるの！」
コタツに入り、みかんを食べていた。

「なに！ なにその目！ 別に僕は怪しくない！」
髪が濡れ、肩にバスタオルを掛けていた。

「確かに！ 確かにお風呂は勝手に入っちゃったけど、それにも訳があるんだよ！」

猫がいた。

俺は猫を飼っていない。

「ごめん！ だから警察とかやめて！」

警察に通報するために携帯電話を取り出すと。

「あつ！ ほら！ すぐそうやって警察呼ぼうとする！ 僕の話聞いているの？」

こいつ、そう言ったあとみかん食べやがった。

「いやっ！ 警察とかいやっ！」

男はこたつに潜った。

「いやー！ いやっ！」

こたつがガタガタと揺れる。

「うつ…、うつつ…」

男は泣きはじめた。

「ニャー！」

猫も鳴いた。

「うつつ…、言い訳が思いつかない…。うつ…」

男はそう言ったとき、こたつの中で静かになった。

警察に通報したら警察官はすぐに来た。警察官はこたつの中の男を引っ張りだした。

「言い訳が思いつかない！ …… あつ、猫がね！ 猫がこの家に泥棒に入っていったのを見たから！ だ、だから猫を捕まえてやろうと思つて！」

男はそう言いながら連れていかれた。

男の不法侵入騒ぎのせいで金魚のことを忘れていたので、餌をやるうと水槽の中を見た。

なぜか、二匹飼っていたのが一匹になっていた。

部屋の中を見回すと、いつのまにか猫は消えていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4564ba/>

留守番

2012年1月12日12時53分発行